

準会員だより

井 澤 有 紀

坂 根 亜由子

藤 野 修 司

横 山 愛 子

谷 村 幸 亮

M.D.-Ph.D. コースを修了して

医学科5年 井 澤 有 紀
(M.D.-Ph.D. コース修了)

M.D.-Ph.D. コースの第1期生として大学院博士課程に進学し、あっという間に3年間の過ぎました。本年3月無事学位取得・修了となり、現在は5年生に戻り、新しい同級生と一緒に臨床実習を受けています。今回、改めて3年間の大学院生活を振り返ってみました。

私のホームであった**情報伝達薬理学教室**では玉置教授提唱の『楽しく研究』をモットーに、多くの学生が自由に研究生活を送っています。私もこの3年間、自由で楽しい毎日を過ごさせていただきました。



教室のみんなでキャンプ



1年目・・・朝早くから夜遅くまでひたすら実験をしていました。何しろ初めてのことばかり。知識もないままがむしゃらに行って、無駄に失敗を繰り返していた頃です。

2年目・・・いろいろな学会に参加し、日本各地の美味しいものと出会いました。北は北海道、南は宮崎、そして海外まで。。。学会の合間を縫って名所を訪ね、更に海の幸・山の幸などご当地グルメを楽しみました。頻繁に学会に顔を出していたおかげで学外の先生方に顔と名前を認識していただけるようになり、ご指導を賜ることができました。このように他大学・他学部の先生方と知り合うことができ、全国の著名な先生方の講演を聞く機会に多く恵まれたのは、やはり大学院に所属していたからこそだと思います。最初のうちは他研究者の発表などさっぱり理解できませんでしたが、なんとなく内容を理解できるようになり、また自分なりに結果を解釈することができるようになってきました。

3年目・・・なんとか論文も形になり、余裕が出てきたため蔵本地区大学院生が情報交換をするためのメーリングリストを立ち上げてみました。医学研究科のみならず、栄養・薬学・歯学・ゲノム・酵素研といった各分野の大学院生たちが登録し、花見などのイベントを通じて交流を深めました。・・・とは言ってもこのメーリングリスト、現在立ち消え状態になってしまい、まったく稼動しておりません。誰か引き継いで管理してくれる方を募集しております。継続・有効活用できなかったことが3年間の心残り

の一つでもあります。また、Tokushima Bioscience Retreatでは同じように研究に励んでいる他分野の院生の発表を聞きました。医学部の薬理で学んでいるだけでは気付けない、私とは異なった着眼点や仮説に対するアプローチ方法を持っている人がこんな身近にいることを知り、大変刺激を受けました。そんな強豪ばかりの中、ラッキーなことに勢いだけで優秀発表賞をいただき初の国際学会参加を果たすことができました！

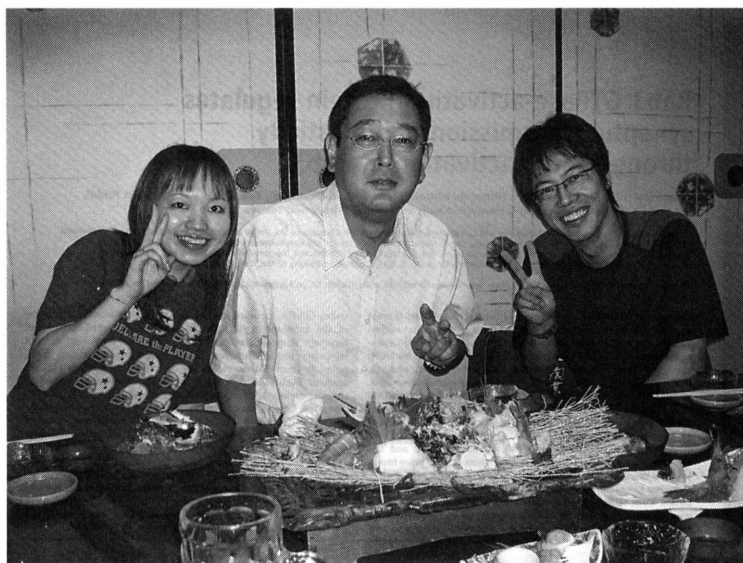
M.D.-Ph.D. コースを選択して良かった点は、玉置先生や吉栖先生とたくさんお酒を飲んで、美味しいものを食べることができた点です。3年間の振り返ると思わず飲み会や旅行の思い出ばかりが蘇ってきます。

二つ目はやはり医学研究の基礎がいかなるものかを集中して学ぶことができた点です。

- ① どのように情報収集するか
- ② 実験をうまく進めていくためには？トラブルシューティングをどうするか
- ③ データをどのように解釈するか
- ④ 人に分かりやすくデータや考えを伝えるためには、どうまとめ、流れを構築するか
- ⑤ プレゼンテーションに必要なことは？
- ⑥ 論文はどう書くのか

また、何よりの収穫は前述の通り“出会い”です。私は元来環境や人に影響されやすく、この3年間で形成された私の行動や思考の基準及び目標は、まさしく玉置先生、吉栖先生、土屋先生を始めとするお世話になった学内外の多くの先生方や、長い時間を共にした仲間たちに基づいています。むしろ私の体そのものが、これまで出会ってきた多くの人のエキスを作られているんじゃないかとさえ思えてきます。

学部生の皆さん、M.D. - Ph.D. コース進学には少しばかり壁もあるでしょうが、是非一度選択肢の一つとして考えてみて下さい。今私はこの道を選択したことにとっても満足しています。そして今後、この3



学会で金沢へ

また、青藍会の皆様には M.D.-Ph.D. コース進学に際し多大なご支援を頂き、誠にありがとうございます。ようやく元の道に戻り、次は臨床医になることを目指して頑張っております。これからも様々な場面でお世話になることがあるかと思いますが、ご支援ご指導の程宜しくお願いいたします。

最後になりましたが、我儘放題の私を3年間根気強くご指導いただきました、薬理学教室の玉置教授、吉栖先生に厚く御礼申し上げます。

3年間の苦難の末に得たもの

医学科5年 坂 根 亜由子
(MD-PhD コース修了)

今回、MD-PhD コースでの3年間の思い出をという原稿依頼を玉置先生からいただきました。玉置先生の考えておられる趣旨からはずれているかもしれませんが、あらためて私のこの3年間を振り返り、それを一言で表現するならば「苦難」が当てはまるのではないかと思います。

私はこのコースに入学する以前の医学科の2年次から佐々木先生の教室（分子病態学分野:旧生化学）で実験に参加させてもらっていましたが、その当時



ももっとがんばりたいと思えるような原動力となっています。

私はこの4月から医学部5年に復学し、現在、臨床実習中です。以前よりもさらに忙しく、実習終了後や土日などの休日にしか時間をとることができませんが、相変わらず研究をしています。今までやってきて上手くいっていないいくつかの仕事、続きとして新たに派生してきた仕事等を何とかゴールまでもっていくことが次の目標です。しかし、そのためには新しいことをたくさん学んでいく必要があります、現在奮闘中です。これも長く険しい道のりになりますが、焦らず辛抱強く臨床実習、研究ともにがむしゃらにがんばっていきなと考えています。

コースでの3年間にひとつの区切りをつけたと考えました。その際には、曽根先生、松本先生、安友先生をはじめとする先生方が私のわがままをご理解くださり、ご支援してくださったことで無事に卒業することができました(論文もPNASにアクセプトとなりました)。また、松本先生にはCOE大学院研究員として採用していただき、青藍会には入学時にご支援いただきましたので、経済的に心配することなく研究に専念することができました。最後になりましたが、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。もちろん、私の研究を始めのきっかけでもあり、私を学部生の頃から怒鳴り続けてここまで育ててくれた、また、私と同様に、もしかしたらそれ以上にこの

3年間がむしゃらに走り続けた師にも敬意と謝意を表したいと思います。